

森林・林業における課題改善を求め 厚労省・林野庁交渉 ～2026森林労連中央行動～

6月8日～9日、2026森林労連中央行動が東京都・林野会館外で開催され、全国の地方から45名が結集し、九州森林労連から7名（直加盟労組1名、全山労5名、林野労組1名）が参加しました。

第1日目は林野会館において結団式が行われ、冒頭、中村森林労連中央執行委員長より、「6月5日に閣議決定された新たな「森林・林業基本計画」の具体政策に向け、現場に混乱を生じさせないための取組や、労働災害における安全対策等について、現状と課題を踏まえ、明日の厚労省・林野庁交渉に臨んでいただきたい」と挨拶がありました。

また、来賓の神谷裕衆議院議員（中道改革連合）、柴慎一参議院議員（立憲民主党）、小林さやか参議院議員（国民民主党）、福島みずほ参議院議員（社会民主党）より挨拶があった後、鳴川森林労連書記長から情勢と課題提起もあり、翌日の交渉に向け意思統一が図られました。

引き続き、学習会では「新しい森林・林業基本計画について」と題して、宮崎大学教授の藤掛一郎氏（林政審議会施策部会長）が登壇され、「脱炭素時代の木材利用を支える循環利用型林業と、生物多様性を基盤



中央本部から林野庁へ要請書を

とした公益的機能を発揮し、経済や政策の力にしてほしい」と講演がありました。

2日目は、衆議院第二議員会館において、厚生労働省及び林野庁と交渉を行いました。

厚生労働省交渉については、①林業における労働行政、②林業分野における外国人材の受け入れ、③労働安全対策、④振動障害・振動病対策などについて交渉を行い、林野庁交渉では、①「森林・林業基本計画」及び森林吸収源対策の推進に係る予算確保、②森林環境譲与税、③森林経営管理制度、④森林資源の循環利用の確立、⑤地域材の安定供給体制の確立及び木材利用の促進、⑥林業事業体の育成及び林業労働力の育成・確保等について交渉を行いました。

また、地方からの課題提起として、九州直加盟（大口素生協労働組合・堀之内氏）より、①入札制度において、地元の事業者が優先的に受注できる発注方式への見直しと、将来の森林整備に繋げるための対策強化、②林業労働者の作業条件改善と、他産業並みの処遇改善策、③森林整備事業において、現場の実態に即した新しい林業の実現を目指すこと、④新たな人材確保における外国人材の受け入れにおいて、労働災害が発生している現状を踏まえ、処遇面、技術面、言語面、安全教育を含めた適切な制度の運用、⑤請負事業の労働災害が多発傾向にあることから、災害原因の徹底的な分析と検証に基づく「新たな労働安全政策」の立案など、現場で直面している課題について求めました。



発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
(電) 096-354-1150

発行者 松本慎剛
発行日 10日
定価 1部20円
組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

当面の行動

7月11日～12日 第22回地本定期大会
7月12日～13日 第21回青年女性委員長会議
7月25日 全国代表者会議
7月26日 第22回定期全国大会
7月27日 第37回森林労連全国大会



ら川下木材需要者までが参加する需要情報連絡協議会の開催や、林業・木材産業における適正取引推進ガイドラインの策定や、各段階で価格転嫁を図りつつ、再造林コストに配慮しながらも価格形成に向けた取組を進めた。④外国人受入れ事業体を認定事業主等に限定し、作業知識を習得するための講習を設定するなど、労働安全対策の強化に係る要件を設定した。引き続き

これらの適切な運用が図られるよう、労働条件の改善に向け施策を講じた。⑤伐倒作業による災害や立木販売における災害が発生し続けていることは認識している。労働基準監督署との連絡調整といった機会を捉え、地域の実態に応じた労働安全衛生の確保に向け取り組んでいる。

引き続き林災防等関係機関との連携強化に取り組む」と回答があり、交渉を終えた。

要請行動終了後には解団式があり、鳴川森林労連書記長より本行動の総括がなされ、中村森林労連中央執行委員長の団結ガンパローで全日程を終了しました。

語り継ぐ責任を胸に刻んだ3日間 ～第37回ヒロシマの旅に参加して～

5月29日から31日の3日間、広島県で開催された「第37回ヒロシマの旅」に参加しました。

1日目は市電に乗り、被爆電車について学びました。実際に乗車はできませんでしたが、被爆からわずか3日後に運行を再開した事実が驚かされました。広島市の復興とともに歩み続けてきた被爆電車は、今も市民の暮らしを支えています。

その後訪れた原爆資料館では、更地となった広島市の写真や、炎から逃れる人々を描いた絵を目にし、言葉にできない思いが

巡り、採火式に参加しました。園内の慰霊碑には犠牲者への追悼だけでなく、平和への願いや誓いが込められていました。また、反核平和の火リレーの目的を学び、私自身も平和運動に積極的に参加していきたいと感じました。

この3日間を通して、学校教育だけでは学ぶことのできなかった戦争の現実に触れました。戦争は多くの命だけでなく、人々が築いてきた暮らしや文化までも奪います。だからこそ、今ある平和に感謝し、この歴史



大久野島で新たな思いを胸にした参加者

を風化させることなく次の世代へ語り継いでいくことが、私たちの使命だと感じました。
(二川通信員 鹿兒島分会)



「赤池溪谷」

(撮影者 迫本 翔太：宮崎南部分会)



「匠の一言」

申間市にある溪谷です。滝や岩壁に囲まれた美しい川を見ることができます。



先日、青女の常任委員が若手組合員に向けた「若手オルグ」の企画を提起しました。普段、集まれば冗談ばかり言っているメンバー。「また何か始まったな」と見ていたのですが、提出された企画書からはその本気が伝わってきました。

「どうしたら参加しやすいかな」「仲間が楽しめる企画にしたい」。そんな思いが詰まってる企画書を見て、思わず「育ってるなあ」と企画は無事に承認され、いよいよ始動するのですが、私から一つだけ願うことがあります。それは、「あまり組合らしくなりすぎないこと」▼組合活動ももちろん大切ですが、それ以上に、仲間と笑い、時には衝突しながら、成功・失敗の両方を経験してほしいかなと▼今の君たちは、健全な心を育む大切な時期だから。型にはまらないその柔軟な姿を少し離れたところから応援しています。
(松ポー)

第22回林野労組定期全国大会 代議員決意表明

全区4名
地区1名

林野労組の全国大会が、7月26日、東京都内の連合会館で開催されることから、各立候補者から決意表明が寄せられました。なお、全国大会代議員は、全区4名、地区1名（北部ブロック）の計5名となっています。

〔全区〕 古村健児(局)



新たな「森林・林業基本計画」が閣議決定され、森林整備の推進をはじめとする様々な課題の取組の展開が日本の森林・林業の在り方として求められて

います。中でも、先導的な役割を果たすべき国有林に対して、各分野から大きな期待がかけられています。

一方で職場環境を巡る情勢は、その期待に応え得る安定した状況とは言い難く、現状は、必要な組織・要員数が満足に確保できていません。業務量だけが増

ては先行き不透明な状況が続いています。さらに、累積債務問題をはじめ、国有林の根幹をなす現場管理機能確保の不透明感など、多くの組合員から、今後の国有林野事業への不安や不満の声が挙げられています。

こうした組合員の声を基に、要員関連課題や労働条件諸課題の改善などに向けた取り組みが前進するよう全国大会の議論に参加します。

〔全区〕 松本慎剛(局)



この1年間、組織担当として活動する中、多くの新しい仲間を迎えることができました。

その一方で、60歳を迎え、給与が7割となつてもなお組合に残り、私たちを支え続けている先輩方の存在があります。

これまで組織を守り育ててくれたその思いを、次の世代へ確実につないでいくこそ、私たちの責任だと感じています。

〔全区〕 加来尚貴(局)



しかし、組織を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。制度の多様化に加え、人員不足や業務量の増加など、職場にはさまざまな課題が山積しています。中でも近年頻発する大規模自然災害への対応では、公務として迅速な対応が求められる一方、現状の要員では限界を感じます。こうした課題を乗り越えるには、制度に柔軟性を持たせる必要があります。それには多くの仲間が必要です。

組織率を上げるのは難しい課題ですが、どのような困難な局面であっても、「絶対に諦めない」という強い信念を胸に、全国の仲間と真摯に議論を重ね、組織の機運を高めてきます。

〔地区〕 井川武史(福岡)



気候変動対策や経済安全保障の観点から、日本の森林と木材資源の重要性が国家的に高まっています。先導的役割を担う国有林に大きな期待がかかる一方、現場は慢性的な要員不足と業務過多に陥り、新採や再任用職員

これらの課題を解消するのは喫緊の課題であります。「誰かが過度な負担も引き受けて頑張っているから維持出来ている」という現状はすでに限界の状態であり、今後も人口減少が予想されている中、早期の改善が必要です。

林野労組としても、これらの課題の解消に向け取り組み、全員で協力しながら一歩一歩前進させ、今後も強固な組織態勢を維持出来るよう全国大会の議論に参加します。

〔全区〕 藤崎恵莉佳(局)



国有林野事業は、新採が増加傾向にあります。現状は必要な要員数が確保できておらず、業務量だけが増加しています。入庁して間もない若年層は即戦力として負担が重なり、ベテラン層は定年延長に伴い役職定年及び給料3割カットで業務を行い、再任用職員においては労働条件が整っていない中で業務を行っています。

そういった、要員関連課題や労働条件諸課題の改善などに向けた取組が前進するよう、全国大会の議論に参加します。



3分でわかる〇〇のコーナー

完璧じゃない、とにかく進む、青年女性委員会 ～笑って、悩んで、つながって。その舞台裏～



新たな挑戦に向けガチ討論

「青年女性委員会って何してるの?」と聞かれますが、正直に答えます。だいたい「勢いで動いているの?」と聞かれますが、正直に答えます。もちろんそれだけではなく、会議では真面目に議論を重ね、現場では汗を流し、時には「これ本当に必要?」と自問自答を繰り返しながら、それでも最後は「やってみるか!!」の一言で物事が進んでいきます。

若いかこそそのフットワークの軽さ、若いからこそぶつかる壁の多さ。この両方をセットで抱え込んでいるのが、青年女性委員会となっています。その中でも常任委員は、委員長会議や春闘・部長会見等の企画運営、全国の青年女性委員との交流、そして活動を次世代へ繋げる動きなど、若手の代表として、先頭を走ってくれる存在です。

どれもこれも簡単ではありませんが、一つ一つの出来事が終わると、ちよつと誇らしく思えます。準備段階では「こうしよう。ああしよう。」と念入りに、当日は「想定外し起きないっ」と慌て、終わった後には「まあ、なんとかあったか」と笑って終わる。この繰り返しです。ただ、その中で一つ確実に言えることは、「繋がりが増えている」ということです。

(二ヶ崎執行委員)

あの人 どんない

「島に溶け込み、笑顔の輪を広げる」

富田 尚斗さん(沖縄分会)

今回、沖縄分会からは富田尚斗さんを紹介します。富田さんは鹿児島県大隅町出身。鹿屋農業高校を卒業後、平成26年度に採用され、本年4月から沖縄署祖納森林事務所で活躍されています。竹富町では、地域住民との交流も大切にしながら、日々業務に取り組んでいます。そんな富田さんが特に熱中しているのが、サッカー観戦です。中学・高校時代はサッカー部に所属しており、現在も日本代表戦は欠かさず応援しているそうです。特にワールドカップは毎大会注目しており、決勝トーナメント勝利の壁の高さを感じながらも、世界の強豪国との熱戦に魅了

されています。注目の海外選手はアルゼンチン代表のメッシ選手やベルギー代表のデ・ブライネ選手で、世界トップレベルのプレーを楽しみにしているそうです。また、地域行事にも積極的に参加しており、5月の子どもの日の運動会では、地域住民とともにリレーに参加したほか、青年会施設周辺の清掃活動やバーベキューにも参加。6月には豊作を祈願する伝統行事「シコマ祝」や、豊漁と航海安全を願う「白浜海神祭」にも足を運び、地域文化への理解を深めています。



地域青年会と美味しいBBQ

地域で積極的な交流を続ける富田さん。持ち前の行動力と親しみやすさを活かしながら、これからも島の環境保全と、地域とのつながりに大きく貢献してくれることでしょう。(沖縄分会・本田通信員)